北海道新型コロナウイルス感染症対策本部
第１３２回本部会議　記録

日　時／令和４年１１月１８日(金)
１８：５７～１９：１５
場　所／本庁舎３階　テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】
これより、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第132回本部会議を開催します。
まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】
資料1をご覧願います。まず、スライド1です。主な指標の状況です。昨日時点で、新規感染者数は、全ての地域で先週比が1を上回っておりまして、人口10万対では全道で1,123.1人で、いずれの地域も過去最多を更新しており、増加傾向が続いております。また、病床使用率も全道で47.0％で、いずれの地域もこの夏のピークを超えておりまして、増加傾向が続いております。

続いて、スライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数の先週比が、全ての圏域で1を上回り、増加傾向が続いておりますほか、病床使用率も同様に増加傾向が続き、特に、道央圏や道北圏は、50％を超える状況です。

続いて、スライド3、総評1です。全国の状況です。新規感染者数の増加傾向が続き、ほぼ全ての地域で先週比が1を上回り、国の専門家は、今後も増加の継続が見込まれ、この傾向が続けば、この夏のような感染拡大となる可能性があると指摘している中、本道は10月26日以降、10万人当たりの新規感染者数が全国最多の状況が続いております。

医療提供体制です。病床使用率は、札幌市を含め増加傾向にありまして、この夏のピークを超えている中、特に道北圏で高い水準が見られ、重症病床使用率も増加しており8.6％です。

感染状況です。新規感染者数は、11月12日以降、人口10万人当たり1,000人を超える状況が続いており、年代別では、約6割を占める30代以下の割合が減少し、その他の年代の割合が増加してございます。

続いて、スライド4、総評2です。今後の対策です。本日開催の政府対策本部で、新型コロナウイルス感染症対策分科会の議論を踏まえ、「今秋以降の感染拡大で保健医療の負荷が高まった場合の対応について」が決定された一方で、国の基本的対処方針は、今後変更される見通しとなったことから、その変更内容を確認していく必要がございます。本道の10万人当たりの新規感染者数は、11月11日以降、過去最多を更新する状況が続き、病床使用率も50％に近づくなど、増加傾向が続いており、分科会が示した感染が著しい地域での呼びかけを、11月15日の知事記者会見におきまして、政府対策本部の決定や基本的対処方針の変更を待たずに、対策を強化いただくよう、道民の皆様にお願いしたところでございます。

続いて、スライド5、総評3です。入院患者数の増加に対応するため、11月14日に全道の即応病床をフェーズ3に引き上げ、また、現在の感染状況に対応し、必要な病床の確保に向け、医療機関との調整を進めてまいります。地域の医療機関や高齢者施設等の集団感染に対応するため、道として、日本DMATに医師派遣を要請し、今月9日から道内で活動いた

だき、17日現在、6名の医師に釧路、オホーツク圏域で活動いただいており、引き続き、地域の入院調整や施設等の感染防止対策を進めてまいります。

また、季節性インフルエンザとの同時流行対策ですが、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画案」を、11月14日、国に提出し、国との協議を進めておりまして、今後、医療機関にも協力をいただきながら、診療時間の延長など、地域の実情に即した体制整備を進めてまいります。なお、今シーズンの季節性インフルエンザは、未だ流行には至っていない状況にございます。

道内の流行株は、BA.5系統が主流となっている中、本日、道内初となるBQ.1.1系統の感染が札幌市で確認され、国の専門家は、オミクロン株の亜系統は、今後、さらに割合が増加する可能性があり注視が必要と指摘しており、引き続き、ゲノム解析により、道内の動向を監視してまいります。

続いて、スライド6、総評4です。オミクロン株対応ワクチンは、11月、12月が接種のピークを迎えるため、年内に希望する方全員が接種いただけるよう、先行事例等の情報提供を行うなど、市町村への支援に努めますほか、12歳以上の若年者に対して、学校と連携した情報発信を強化するなど、様々な世代に接種を検討いただけますよう、ターゲットに合わせた集中的広報を展開します。

次に、無料検査事業ですが、12月末まで期間を延長してまいります。

また、国の分科会で議論されておりますオミクロン株に対応したレベルや対策の見直しは、基本的対処方針の速やかな変更、総理から国民への必要な呼びかけを全国一律で実施することなど、病床確保料の見直しに関する柔軟な運用と併せまして、今週16日には厚生労働大臣と意見交換したほか、昨日、全国知事会で議論を行い、本日、関係省庁に対し、要請を行ったところでございます。

11月16日、道の有識者会議を開催し、これまでの対応状況、国の動きを踏まえた対応方向についてご意見を伺い、総じて異論は無かったものの、分かりやすい情報発信や、ワクチン接種の推進、感染防止対策の徹底と社会経済活動との両立などが課題とのご意見をいただいたところでありまして、こうした意見も踏まえまして、取組を進めてまいります。

続いて、スライド26まで飛びます。スライド26をご覧いただきたいと思います。道の接種センターのオミクロン株対応ワクチンですが、道民の皆様から高い関心をいただいておりまして、既に予約を満たしている状況でございます。オミクロン株対応ワクチンの接種を希望の方は、接種会場や日程など、お住まいの市町村にお問い合わせ願います。

その他のスライドについては、本日の説明のデータや情報でございますので、後ほど、ご一読いただければと思います。資料1は以上でございます。

続いて、資料2をご覧いただきたいと思います。資料1「道内の感染状況等」について、専門家や有識者の皆様にご意見を伺うとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせをしてございます。有識者や専門家の皆様からは、「概ね妥当である」旨のご意見をいただいており、その内容をご紹介いたしますと、1「感染者が増加しても、医療機関の受診に困難が生じない体制をお願いしたい。」、2「 本道の現状を踏まえれば、今一度、道民への基本的な感染対策の協力を強く呼びかけ、とりわけ、換気対策の徹底の周知を強化していただきたい。また、「外来医療体制整備計画案」は、社会経済活動との両立、道民の不安解消につながる重要な計画のため、国との協議を着実に進めるとともに、検査キットの十分な確保に向けた情報収集と関係先への協力要請を進めていただきたい。」こうしたご意見が寄せられました。こういった面につきましては、今後の対策の参考としてま

いります。説明は以上です。

【副本部長（小玉副知事）】
次に札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】
札幌市の感染状況につきまして、スライドを使ってご説明いたします。資料3をご覧ください。最初のスライドです。札幌市内の医療機関等から報告されました新規感染者の1週間の合計についてでありますが、昨日の時点で23,305人、市の人口10万人当たりに換算いたしますと、1188.6人となってございます。また、1日当たりの新規感染者数も11月16日には4,456人と過去最多を更新するなど感染拡大が続いている状況であります。なお、オミクロン株のBQ.1.1系統が札幌市衛生研究所のゲノム解析により、市内で初めて確認されたところです。発生動向につきましては、引き続き、ゲノム解析を行い注視してまいります。

それでは、次のスライドをご覧ください。市内の入院患者数、黄色の棒グラフでございますが、昨日時点で491人と8月のピークを超えている高い水準にあり、確保病床以外でも多くの患者を対応していただいている状況でございます。なお、491人は入院受入医療機関に入院している患者数でありまして、国の基準の確保病床を上限とした入院患者数を集計いたしますと、括弧内にございますけれども、382人となります。この国の基準で計算したものにつきましては、青の点線の折れ線グラフの形になりまして、現在、確保病床数の上限とする入院患者数は382人なのですけれども、この差につきましては、確保病床を超えて入院してる患者数ということになります。今後、この表現につきましては、道との協議を進めてまいるところでございます。

医療機関では入院患者の増加に加え、医療従事者やそのご家族の感染という厳しい状況が重なり、保健所による入院先の調整も実質的には、ほぼ満床状態ということにより時間を要する状況が続いております。要介護高齢者を受け入れる病床も一時は満床となりましたが、医療機関のご協力により、受入病床を増やして対応していただいているところでございます。それでも依然としてその約9割が埋まっている状況でありまして、医療への負荷は大変厳しい状況にございます。このような状況を踏まえまして、札幌市では、札幌市医師会と連名によりまして、市内医療機関に対し、昨日付けで、医療提供体制の強化に向けた協力要請を行ったところでございます。引き続き、関係機関と連携しながら取組の一層の強化を図ってまいります。

それでは、最後のスライドをご覧ください。最近1週間の検査件数でございます。これは21,424件となっておりまして、陽性率は高い水準での推移が続いているところでございます。

新規感染者、または、入院患者ともに厳しい状況が続いてございますけれども、医療提供体制を確保しながら社会経済活動を進めるためにも、基本的な感染対策の徹底とワクチンの接種、そして重症化リスク等に応じた外来受診や療養への協力の呼びかけなどが重要というふうに考えてございます。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】
この他、各部、振興局からご発言ございませんか。なければ本部長からお願いします。

【本部長（鈴木知事）】
本日の道内の新規感染者数は、8,477人。道内の新規感染者数は、15日、16日には、1万人台となり、2日連続で過去最多を更新し、今月に入って4度にわたり過去最多の更新が続いているという状況にあります。人口10万人当たりでは、1,134人と、10月26日以降、全国最多が続いているという状況にあります。また、全道の病床使用率は、48.2%と増加傾向が続いております。医療の負荷の状況を丁寧に把握していく必要があります。重症病床使用率についても9.5%と増加しており、注意が必要な状況にあります。

こうした中、本日、先ほどご報告がありましたが、道内で初めて、BQ.1.1系統が札幌市で2件確認されました。現在、道内の流行株は、BA.5系統が主流となっているわけでありますが、今後、さらに割合が増加する可能性もありますことから、ゲノム解析による監視をしっかりと進めていただくようお願いいたします。

現在の本道は、これまでにない高い感染レベルにあります。いつでも、誰もが、感染する可能性があります。こうした中、本日開催された政府対策本部において、分科会で議論された今後の対応が決定されました。この対応に位置づけられた、感染が著しい地域での呼びかけについては、本道の感染状況を踏まえまして、11月15日の記者会見において、政府対策本部の決定や、基本的対処方針の変更を待たずに、対策を強化していただくよう、道民の皆様にお願いをしたところであります。各本部員、地方本部員においては、市町村や関係団体と連携しながら、この対策の強化について、丁寧に呼びかけを行っていただくようお願いします。

本道の厳しい感染状況を踏まえ、一昨日には、私自身が加藤厚生労働大臣に直接お会いし、認識を共有するとともに、今後の対応について、意見交換をさせていただきました。

また、昨日には、全国知事会の場においても、北海道の考え方を発言させていただいたところであります。具体的には、分科会の議論を踏まえた基本的対処方針の速やかな変更、現在の全国的な感染拡大を踏まえた総理による国民の皆様に対する呼びかけ、そして、取組を強化する都道府県への国の支援の強化などについて、国としての対応を求めたところであります。本日、国は、政府対策本部を開催したわけでありますが、基本的対処方針の変更そのものについては、来週以降になる見通しとなりました。このため、国の考え方の詳細や基本的対処方針の変更内容について確認するなど、情報収集を十分に行っていただくようお願いいたします。

また、厚生労働大臣、そして全国知事会の場では、病床確保料の見直しについても議論をさせていただきました。大臣からは、近く新たな取扱いを明らかにするという考えが示されたところであります。今後は、これまでの議論を踏まえ、都道府県知事が一定の裁量を持ち、柔軟な対応が可能となる方向であるということでありますことから、道としても、そうした内容を関係団体や医療機関に、しっかりとお伝えをするとともに、現在、取組を進めている個別の医療機関への働きかけをはじめとして、病床の確保に取り組んでいただくようにお願いいたします。

こうした病床確保など、保健・医療提供体制の強化については、道内の感染拡大が続く中、極めて重要になります。道としては、日本DMATと連携した集団感染への対応、同時流行を想定した外来医療体制の強化を進めております。引き続き、関係団体や医療機関とも

連携しながら、その取組を着実に推進するようお願いいたします。

最後にワクチン接種についてであります。オミクロン株対応ワクチンの接種については、今月から来月にかけて接種のピークを迎えます。道内の接種率は、全体で、全国を上回っているものの、65歳以上の方は、若干全国よりも低い状況にあります。このため、年内に希望する方全員が接種をしていただけるよう、先行事例の情報提供を行うなど、市町村の支援に努めるとともに、年齢層などターゲットに合わせた集中的広報を展開し、速やかな接種の検討をいただくよう取組を進めることを指示します。

私からは以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。

以上をもって、新型コロナウイルス感染症対策本部第132回本部会議を終了いたします。

（了）